

姉妹都市マドラス市とは



Mt.Hood フッド山



1. 姉妹都市アメリカ合衆国 オレゴン州マドラス市について

1.1. 東御市と姉妹都市協定するまでの交流経緯

隣町の立科町がアメリカ合衆国オレゴン州オレゴン市と姉妹都市提携・交流をすすめていることが縁で、平成4年の8月にアメリカ合衆国オレゴン州マドラス市長ご夫妻の来訪を受け、平成5年10月には北御牧村よりマドラス市に表敬訪問を行いました。

その後、平成6年8月に、北御牧村はオレゴン州マドラス市と正式な姉妹都市提携を締結。

平成9年6月には、北御牧村から29名の親善訪問団がマドラス市を訪問し、交流を深めました。マドラス市からは、平成10年10月に11名、平成13年8月に2名、そして、2002年には友好都市委員長ロビン・ガーク氏ご夫妻2名がマドラス市から北御牧村に来村され、北御牧村交流委員や北御牧小学校児童などと交流をしました。

その後、平成16年に東御市が合併したことにより、平成17年に親善訪問団がマドラス市を訪れ、東御市として姉妹都市協定の調印を行いました。平成22年には、マドラス市100周年記念式典に参加し、記念植樹を行いました。

現在では、毎年、東御市内在住の高校生によるマドラス市でのホームステイ事業や交互の親善訪問など、多岐にわたる交流が継続して行われています。

1.2. マドラス市プロフィール

位 置： オレゴン州ジェファーソン郡
 交通機関： ポートランド国際空港まで国道26号で約250km
 人 口： 約6,351人（2012年） 和地区と同じくらい
 世 帯 数： 約2,200世帯（2011年） 和地区と同じくらい
 標 高： 2,242フィート（683m）
 気 候： 1年を通して乾燥しており晴天の日が多い

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
平均最高気温（℃）	5.4	8.7	12.9	16.8	21.3	25.4	30.6	30	25.5	18.5	10.3	5.8	17.6
平均最低気温（℃）	-5.5	-4	-2.6	-1	2.2	5.3	7.3	6.4	3	-0.4	-2.7	-4.9	0.3
降水量（mm）	29.2	20.8	18.8	18	24.1	20	8.6	8.4	12.2	18	32.5	32	242.8
降雪量（cm）	12.2	5.3	1.8	0.3	0	0	0	0	0	0	3.6	8	30.7

面 積： 5.02平方マイル（13.00 km²）
 地 勢： カスケード山脈東側の平野部
 （近くの山地一帯は広大なネイティブ・アメリカンの居留区）
 主な産業： 農業（牧場）、木材加工など
 公共施設： 警察、裁判所、図書館、病院、空港
 学 校： マドラス高校（約800人）、ジェファーソン中学校（867人）、
 小学校4校（約1,000人）、私立小中学校1校
 人種構成： 白人：63.55% アフリカン・アメリカン：0.59%
 ネイティブ・アメリカン：6.14% アジア人：0.55% 太平洋諸島系：0.35%
 その他の人種：24.56% 混血：4.25% （ヒスパニック・ラテン系：35.74%）

当初は、現在の町がある円形のバレーから「ザ・ベースン」と呼ばれていましたが、1903年にマドラスと名付けられました。この名前は、インドのマドラス（現在のチェンナイ）で産する綿織物によるものか、マドラス市そのものに因むものか、現在では明らかになっていません。

2. ホームステイ ワンポイントアドバイス

まずは、英会話の練習の前にホームステイ先で覚えておくの良い点をいくつか紹介しましょう。時には、英語力以上に重要になってくるでしょう。

■ ホストファミリーだって不安を感じている

ホストファミリーの中には初めて受け入れをする人もいます。また、何回も受け入れを経験している人でも、受け入れる人が違えば毎回不安を覚えているはず。「皆さんが何か困っていないか」「自分たちとして本当に楽しく過ごしているのか」といつも気をもんでいるのです。

そのファミリーの不安を解消できるのは皆さんの笑顔とがんばりなのです。たとえ上手くいかなくても、話をしようとするひたむきさと、ニコリした笑顔はあなたの心を伝えてくれるはずです。

■ 話題づくりがポイント！

一般に、欧米の方はよく話します。これには、文化の違いが大きく影響しています。日本の文化では、空気を読むことでなんとなく相手の言いたいことを察するため、自然と口数は少なくなります。一方、欧米の文化では、詳しい説明をすることにより相手に納得してもらうことが重要なため、自然と口数が多くなるのです。

したがって、日本にいればあまり口にしないようなことでも、またどんなにくだらないと思うことでも、まずは口にしてみるとよいでしょう。「今日の授業は楽しかったよ」とか、「ご飯、おいしかったよ」とか、小さな話題でも欧米ではよい会話のきっかけになります。

また、多くの会話は疑問文から始まります。人は、何かを訊かれると応えざるを得ないので、自然と会話が成立します。皆さんのホストファミリーも、「今日学校で何してきたの?」とか、「明日、一緒にスーパーマーケットに行く?」とか、さまざまな質問をしてくると思います。逆にそれを応用して、こちらも、「あれ、何ですか?」とか、「今日の天気はどうですか?」などと話しかければ、相手は自然と話してくれます。時にはかなり長い答えが返って来ることがありますが、よいリスニングの練習にもなりますので、まずはいろいろな質問を考えて、こちらから会話を始められるようにしておきましょう。

■ 写真を持っていこう！

英語だと複雑な会話が出来ず話題がなくなってしまうのでは…と不安に思う人もいるでしょう。

そのような困ったときのたすけにとっても役立つのが写真です。日本の家族や友人、学校の授業や部活の様子、ペット、自分の家の中や周りの様子などの写真を見せると、そこから話が発展していくはずですよ。

デジカメやスマホのデータを持っていくのもかまいませんが、家族みんなで見られるように、プリントアウトしていったものをポケットアルバムなどに持っていくほうがお勧めです。そのままプレゼントすることもできます。

また、日本の音楽のCDやDVD、音楽の入ったプレーヤーなどを持っていくのも良いでしょう。共通の話題があればコミュニケーションもとりやすくなるので積極的に話題を見つけたら良いでしょう。

■ イエス・ノーをはっきりと

日本の生活では、あまり物事をはっきりという文化がありません。

しかし、アメリカではあいまいな返事をする、相手は、どちらなのかかわからず困ってしまいます。遠慮せずにイエス・ノーをはっきりと言う事が大切です。とにかく自分の意見をはっきり伝えることが大切です。このことで相手が腹を立てたりすることはまずありません。煮え切らない態度が一番迷惑をかけてしまうことを忘れない事が大切です。

■ 英語がうまくしゃべれないから困る・・・

なんて決して不安に思わないでください。東御市の代表として選ばれたあなた方は、言葉以上に雄弁なものを持っているのです。つまり、相手の生活や文化に対する興味、仲良くなろうとする積極性、受け入れてくれたことへの感謝の気持ち、日本を少しでも理解してもらおうという誠実さなどです。

この気持ちさえあれば、英語が十分しゃべれなくても何の不安もありません。英語がうまく出せないから黙ってしまうのではなく、知っている英単語を駆使して、身振り手振りを交えて、何とか気持ちを伝える努力をする事が大切です。

■ 部屋にひきこもらないほうが◎

せっかくホームステイしているのに、ステイ先で自室にこもってしまう人がいます。ホストファミリーは当然心配しますし、自分も決して楽しいとは言えないでしょう。日本で自室で過ごすことが多い人でも、努めて部屋から出て行きましょう。夕食後の団らんのひとは、必ずファミリーと過ごすほうがよいでしょう。

■ 無理は禁物

アメリカの食事は量が多いことがあります。食事の量が多すぎて、苦しいのに無理をして食べて具合が悪くなってしまった、という話を良く耳にします。そういうときは、きちんと「もうおなかがいっぱいです」などと自分の状態を伝えましょう。わがままと、無理をしないのとは違います。

また、食べ物に関しては好き嫌いがあるかと思います。ただ、なるべくチャレンジはしてみましよう。チャレンジしたところで、食べられないというのであればホストファミリーに伝えましよう。

■ お土産は説明ができるように！

プレゼントが日本的なものである場合は、それがどういったものであるか説明する必要があります。あらかじめ英語で説明できるように準備しておくといよいでしょう。実際に使いつ方を実演するのもよいでしょう。

日本とは違い、もらったプレゼントはその場で開けるのが普通です。包装紙をバリバリと破って開けることもあります。それはうれしい気持ちを素直に表しているのです。自分も何かプレゼントをもらった場合、すぐに開けてみて感謝の気持ちを伝えましよう。

■ ホストの子どもたちやペットと仲良くなろう

アメリカでは、動物を飼っている家がほとんどです。そのペットに関する会話をキッカケに親しくなるのもよいでしょう。散歩に一緒に行くのもよいでしょう。動物アレルギーがある人、また猫や犬が苦手な人はその旨前もって申し出ておきましよう。

また、小さな子どもたちがいるファミリーでは是非一緒に遊びましよう。英語が苦手でも、楽しく遊ぶことができるはず。事前に小さなこどもがいることが分かっている場合、一緒に遊べるものをお土産として持っていくと大変喜ばれると思います。

■ 食事のときのアドバイス

欧米では、食事のとき「いただきます」も「ごちそうさま」も言いません。その家の主人が食べ始めたら OK と考えていいでしょう。食べるスピードは、なるべくまわりの人達に合わせて、一人だけ早く終ってしまったたり、いつまでも残ったりしないように気をつけましよう。

なかには食前にお祈りする家庭もあるとおもいますが、その時は両手をひざの上において、お祈りがすむまで下をむいていれば OK です。

ただ、日本の文化である「いただきます」「ごちそうさま」の意味をファミリーたちに説明するのも面白いかもしれません。

■ 日本の料理をふるまってみよう！

基本的に食事はホストファミリーが準備してくれます。ただ、何か一品日本料理が作れるようにしておくといいでしょう。お世話になったお礼の意味も込めて料理を作ってみましょう。食べ物は交流の良いきっかけとなります。

おすすめはカレー。簡単で量も増減できるのでいいでしょう。そのほかには、チャーハン、お好み焼きなどもおすすめです。

また、現地のスーパーでは簡単な日本の食材を売っていることも多いです。料理の得意な人は、ファミリーと一緒にスーパーに行き、ある素材で作ってみてもいいでしょう。

■ お手伝いは積極的に！

ホスト先へは、「お客さん」としてではなく「家族の一員」として受け入れられることを忘れないでください。積極的にお手伝いにチャレンジしてみましよう。気を使って断られることもあるかもしれませんが、ひとこと声をかけることが大切です。

食事の準備、部屋の掃除、スーパーでの荷物運びなど、率先してやってみましよう。

■ お風呂のマナーに気をつけて！

ご存知かと思いますがアメリカでは日本と違い、お風呂に浴槽はないのでシャワーで済みます。たいていのシャワールームではバスタブにシャワーカーテンを入れて、外が濡れないように使用することがほとんどです。初めてシャワールームを利用するときは、水の出し方やシャンプー、ボディソープがどれかなど、しっかり説明を受けておいたほうがいいでしょう。

気をつけたいのはシャワーを利用する時間。日本とは違い、水は大変貴重です。長風呂はせず、5～10分ですませるように心がけましよう。

■ 着替えはなるべく少なく！

10泊12日という長い期間の滞在。気になるのが、どれぐらい着替えを準備すればいいのか？ということです。飛行機に持ち込めるスーツケースには重量制限があるので、注意が必要です。

ステイ先では、洗濯をしてくれるはずですが、着替えはできるだけ少なく。3～4日分あれば、十分でしょう。

夜は冷えることもありますので、あたたかい服装も忘れずに。学校では、体育の授業に参加させてもらえることもあるので、ジャージも1組あるといいでしょう。靴は、履きなれたスニーカー等がおすすめです。

なお、オフィシャルな場所、礼拝（ホスト先によっては休日に教会へ連れて行ってくれるかもしれませんが）の時にはラフな格好は避けましよう。襟付きのシャツ等が1枚あると便利です。